

創業以来、医療関連サービス事業のフロントティアとして、「真に病院と患者の立場に立った院内環境の整備」を掲げ、積極的に事業を推進してきました。

患者のニーズを的確に把握し、各種電気・通信機器・エアマットなどのレンタル事業を通して、便利で快適な入院生活を実現するとともに、病院内のコミュニケーションの活性化を図っています。

《病室向けのレンタルテレビシステムを展開するパースジャパンは昭和59年に創業。病院向けのコインタイム式テレビのレンタル業務から事業をスタートした。翌年、大手ベッドメーカーと協力し、床頭台付きコインタイム式テレビの営業を開始し、一気にシェアを伸ばした》
創業当初は、病室に1台テレビがあれば十分で、入院患者が自分の見たいテレビを見ることはせいとくとされてきました。このため営業に回っても、断られることが圧倒的に多かったのです。
しかし、入院生活を快適に送り

たいという患者が増える一方、病院側も競争が激化し、患者に対するサービスを重視するようになりました。そうした時期に投入したのが、床頭台付きコインタイム式テレビだったので。

《パースジャパンは、病院内のIT（情報技術）化にも力を入れてきている。62年にコインタイム

ーに代わるカードタイマーを開発し、その後の主力商品となる。さらに平成15年、ICカードによる院内キャッシュレスシステムを初めて実現したほか、17年3月からベッドサイドで食事などを注文できる端末について本格的に導入を始めた》

最新のシステムとして、18年に

投入した、病院内フェリカICカードシステム「ホスカ」がありま。非接触ICカード技術を利用した院内キャッシュレス&セキュリティーシステムです。

大容量でセキュリティーの高いICチップを採用していますので、ベッドサイドテレビを中心としたさまざまな機器利用のほか、院内売店、自動販売機などの決済にも利用できる、本格的なキャッシュレスシステムの構築が可能になります。職員用のIDカード機能も兼ね備えれば、入室・退室管理といった運用にも対応できるわけです。

《ホスカは、トヨタグループの医療法人豊田会「刈谷豊田総合病院」や東京女子医科大学「八千代医療センター」をはじめ、さまざまな病院で採用され始めている》
ホスカを使って、ベッドサイド

のモニターで見るコンテンツも映画、インターネット、病院情報と豊富になりました。病院側からは「自由に動けない患者もいます。映像でも音楽でも、外から情報が入ってくるのはいい刺激になります」といった反響が寄せられています。

職員用IDカードも「お金を持ち歩かず、身軽で便利」といった声が少なくありません。特に大きな病院は、個人によって入室が禁止されている場所が多く、区分けも複雑になります。職員、患者、面会者のすべてにICカードを配布し、コンピューターで入室を管理できるセキュリティー機能を採用する病院は今後増えるものとみえています。

2年前、パーステクニカルサービスというモノづくりの会社を立ち上げました。テレビや冷蔵庫などの製造委託業者に対し、患者の立場から使いやすい機器を開発してもらおうよう、意見を反映させています。

データ パースジャパン 病院向けレンタルテレビシステム▷本社・東京都文京区▷資本金1000万円▷社員数72人▷http://www.persjapan.co.jp



患者の立場で院内快適に